

2015年3月18日

金属労協/JCM

2015年闘争の回答に対する金属労協議長の談話（要旨）

- 金属労協（JCM）は、本日、集計登録組合を中心とする集中回答日を迎えた。要求提出以降、本日の回答引き出しに至るまで懸命な交渉を展開された各産別・労連・労組の奮闘に心からの敬意を表したい。
- 現時点で全体の回答状況の把握には至っていないが、各産別からの報告などを総合勘案し、現段階での概括的な受け止めを表明したい。

1. 歴史的見地からの2015年闘争考察

- 金属労協は、昨年5月に結成50年を迎えた。2015年闘争は、金属労協にとって新しい半世紀における一歩目となる重要な闘争。
- 金属労協の春闘の歴史でも、今後の経済好循環につなげる上でも転換点であった、との組合員が振り返れる闘争に、という強い使命感の下での取り組み。
- 昭和の高度経済成長期、名目で20%、実質で10%以上の賃上げを獲得。「前年度プラスアルファ」を要求水準に。
- 経済環境が曲がり角を迎えた75年闘争。社会的責任踏まえ、金属労協側から「インフレモードを刺激する大幅賃上げ自制」、との考え方を打ち出し。所謂、「経済整合性」論に立ち、インフレ率を15%に抑えるための要求を掲げる。
- 平成に入り2014年、永らく続いたデフレの脱却、景気回復の兆しが見え始め、経済環境が激変する中、『マインドシフトを図り、賃上げを起点とする好循環サイクル』を起動させる、いわゆる「平成の経済整合性闘争」に取り組んできた。

2. 集中回答日の結果に対する思い

- 昨年の2014年闘争は、デフレ脱却と経済成長を確実なものとするための第一歩目。
（裏を返せば、ほんの一步）
- 本年、2015年闘争は、継続した賃上げが求められている中であって、

昨年より歩幅の大きい2歩目を踏み出せた、と考える。

- 従って、現在の回答結果を見る限り、金属労協として、職場の組合員をはじめ、世の中の目線を持上げていける、“期待感”を発信出来ている、また、期待感を引き寄せることができているのではないかと考える。

3. 一枚岩の取り組みに対する思い

- 議長として、今次闘争における“一枚岩”の取り組みを重視。
- 5産別53組合による一枚岩が起こした本日の“波”を、就業形態、規模の大小、業種の垣根を越えて波及させ、この“波”を“大波”に、日本の全ての労働者を巻き込む大きな“賃上げのうねり”へと成長させていく必要。
- 今後、回答引き出しが本格化する中堅・中小労組の結果が、決定的に重要。
- 本日引き出した、“昨年を確実に上回る賃上げの流れ”を波及させ、賃上げによる「人への投資」が消費拡大を通じて経済の活性化を促し、それが企業の持続的成長へ繋がるという一連の好循環サイクルを着実なものとするよう、JC共闘全体で支えていく。

4. 結び

- 4月3日13時から中堅・中小労組を含めた金属労協全体の回答状況について、記者会見で報告する。

以 上